

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 司法研究科 |
| 大項目 | 3 教育体制 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 3.0.1 専任教員の数 |
| 要素 | 専任教員が12名以上おり、かつ学生15人に対し専任教員1人以上の割合を確保していること。 |
| 小項目 | 3.0.2 専任教員の必要数 |
| 要素 | 法律基本科目の各分野毎に必要な数の専任教員がいること。 |
| 小項目 | 3.0.3 実務家教員の割合 |
| 要素 | 5年以上の実務経験を有する専任教員が2割以上であること。 |
| 小項目 | 3.0.4 教授の比率 |
| 要素 | 専任教員の半数以上は教授であること。 |
| 小項目 | 3.0.5 教員の年齢構成 |
| 要素 | 教員の年齢構成に配慮がなされていること。 |
| 小項目 | 3.0.6 教員のジェンダー構成 |
| 要素 | 教員のジェンダー構成に配慮がなされていること。 |
| 小項目 | 3.0.7 担当授業時間数 |
| 要素 | 教員の担当する授業時間数が十分な授業準備をすることができる程度の適正なものであること。 |
| 小項目 | 3.0.8 教育支援体制 |
| 要素 | 教員の教育活動を支援する仕組み・体制が用意されていること。 |
| 小項目 | 3.0.9 研究支援体制 |
| 要素 | 教員の研究活動を支援するための制度・環境に配慮がなされていること。 |

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 専任教員(みなし専任教員を含む)1人に対する学生数を10人とする。 | →教員1人当たりの学生数。 | A | A | A | A | |
| 2. 判例研究会(仮称)の発足と研究会活動における業績の公表。 | →定例研究会の開催回数、業績の公表数。 | C | B | B | B | |
| 3. 教員人事の長期計画案の策定。 | →「将来構想委員会」(仮称)の設置と人事計画案の決定と明示。 | C | B | B | A | |
| | | ☆ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|--|
| 目標1 | 前年度に引き続き目標の水準に達している(2012年5月1日現在 学生数186名、専任教員数25名)。 |
| 目標2 | 判例研究会を計3回開催した。参加者数は教員35名、学生18名であった。 |
| 目標3 | 将来構想委員会が設置され、教員人事の長期的な計画案を策定した。 |
| 備考 | |